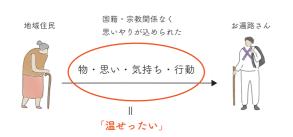
## お遍路さん 散髪してきます? 場として受け継ぐ Bonne continuation! お遍路さん今から お接待ライブします 温せったい」 ~四国に根付くお接待の新たな形~ Osettai for you!! 道案内しましょうか~? お遍路さん -休みどうですか 01 四国で根付くお接待文化 02 増加する外国人歩きお遍路 03 減少するお接待の主体である四国の高齢者 (万人) 2020~2050年の 「お遍路さーんお接待です~」四国の街中歩いているとあちらこちらでそんな掛け声とともに飲食物を 35% 歩いて四国遍路をまわることを歩き 歩きお遍路さんが増加 35 年間で 53 万人減少 30 年間で 110 万人減少 お遍路さんに手渡す光景が多く見られる。これは四国 88 箇所霊場を巡るお遍路さんに食べ物や飲み物 3000 遍路と言い、その数はコロナ渦で一時 する一方で、お接待を などを施す、四国で200年以上続く「お接待」という文化である。お接待では単に物品を渡すのでは 2500 落ち込んだものの、年々増加傾向に 行っている主体である なくお接待を行う地域住民が私の分までお遍路を巡ってほしいという思いも渡されると言われている。 高齢者は四国全体で減 ある。特に近年は外国人歩き遍路の数 1500 が顕著に増加しており、その数は過去 少しつつあり、お遍路 1000 10年でおよそ10倍となっており、 さんに様々な施しを行 お遍路は日本人だけの文化ではなくな うお接待文化の消滅が 2004 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17(年) りつつある。 危惧されている。 1970 2000 50(年)

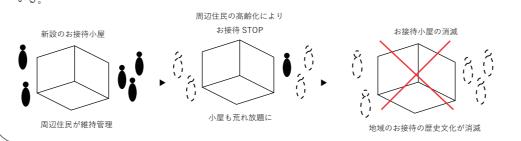
## 04 お遍路文化から抽出した「温せったい」という手法

今回は四国の人々の国籍や宗教関係なく、すべてのお遍路さん に対する思いやりが込められた行動や心を「温せったい」という 手法として抽出する。



## 05 出現と消滅を繰り返す接待小屋

近年四国では地域のコミュニティセンターの役割もかねて歩きお遍路さんをもてなすための小さな接待小屋が各地に建てられるようになった。新設の接待小屋は確かに地域のコミュニティー機能を担い、お遍路さんとの交流の場となった小屋もある。しかしながら維持管理の主体はあくまで周辺住民であり、高齢化により接待小屋でお接待をする人や小屋の手入れをする人が少なくなり、荒れ放題となってしまう小屋が増加している。



## 06 今回の提案内容 / お接待という文化を空間として受け継ぐ文化を作る

今回は「温せったい」という四国の人々の分け隔てないお遍路さんへの真心を元に、すでに人々が普段から生活している住宅や店舗の一部を改築または増築を行い、そこに接待場の機能を挿入していく。そうすること住宅・店舗に設けられた接待場は建物とともに、親から子、子から孫へと引き継がれたり、一代目店主から二代目店主へと受け継がれたりする。お接待の心(ソフト)は思い出の詰まった空間(ハード)とともに何世代にも渡って町の中で受け継がれることを目指す。

